

物価上昇に賃金は追いついていない!!

追加署名分
100筆提出

「昨年と同等を目指したい」は認められない!!

モチベーション
上がるわけない



今こそ国労共に生活改善・労働条件改善に向け奮闘しよう。

任です。異常な物価上昇は社員の生活に大きな負担となっており、それを補う賃上げをおこなうことが貨物会社の責任です。

員の生活実態に背を向けたものです。

率を含めたベアを実施していますが、世間の動向や社

円、2024年平均1800円と労働者間に格差をつけ

2022年には平均3000円、2023年平均1000

てきました。最高益を上げても社員には還元することなく僅か700円とい

うもので社員の生活は改善することはありませんでした。

また、その後、2017年から最高益を上げ、2018年(3000円)、20

19年(2000円)のベア実施、2020年(2000円)の賃金改善を行っ

てきました。最高益を上げても社員には還元することなく僅か700円とい

うもので社員の生活は改善することはありませんでした。

また、その後、2017年から最高益を上げ、2018年(3000円)、20

19年(2000円)のベア実施、2020年(2000円)の賃金改善を行っ

てきました。最高益を上げても社員には還元することなく僅か700円とい

うもので社員の生活は改善することはありませんでした。

また、その後、2017年から最高益を上げ、2018年(3000円)、20

19年(2000円)のベア実施、2020年(2000円)の賃金改善を行っ

てきました。最高益を上げても社員には還元することなく僅か700円とい

うもので社員の生活は改善することはありませんでした。

また、その後、2017年から最高益を上げ、2018年(3000円)、20

19年(2000円)のベア実施、2020年(2000円)の賃金改善を行っ

てきました。最高益を上げても社員には還元することなく僅か700円とい

うもので社員の生活は改善することはありませんでした。

また、その後、2017年から最高益を上げ、2018年(3000円)、20

19年(2000円)のベア実施、2020年(2000円)の賃金改善を行っ

てきました。最高益を上げても社員には還元することなく僅か700円とい

うもので社員の生活は改善することはありませんでした。

また、その後、2017年から最高益を上げ、2018年(3000円)、20

19年(2000円)のベア実施、2020年(2000円)の賃金改善を行っ

てきました。最高益を上げても社員には還元することなく僅か700円とい

うもので社員の生活は改善することはありませんでした。

また、その後、2017年から最高益を上げ、2018年(3000円)、20

19年(2000円)のベア実施、2020年(2000円)の賃金改善を行っ

てきました。最高益を上げても社員には還元することなく僅か700円とい

うもので社員の生活は改善することはありませんでした。

また、その後、2017年から最高益を上げ、2018年(3000円)、20

19年(2000円)のベア実施、2020年(2000円)の賃金改善を行っ

てきました。最高益を上げても社員には還元することなく僅か700円とい

うもので社員の生活は改善することはありませんでした。

また、その後、2017年から最高益を上げ、2018年(3000円)、20

19年(2000円)のベア実施、2020年(2000円)の賃金改善を行っ

てきました。最高益を上げても社員には還元することなく僅か700円とい

うもので社員の生活は改善することはありませんでした。

また、その後、2017年から最高益を上げ、2018年(3000円)、20

19年(2000円)のベア実施、2020年(2000円)の賃金改善を行っ

てきました。最高益を上げても社員には還元することなく僅か700円とい

うもので社員の生活は改善することはありませんでした。

また、その後、2017年から最高益を上げ、2018年(3000円)、20

19年(2000円)のベア実施、2020年(2000円)の賃金改善を行っ

てきました。最高益を上げても社員には還元することなく僅か700円とい

うもので社員の生活は改善することはありませんでした。

また、その後、2017年から最高益を上げ、2018年(3000円)、20

19年(2000円)のベア実施、2020年(2000円)の賃金改善を行っ

てきました。最高益を上げても社員には還元することなく僅か700円とい

うもので社員の生活は改善することはありませんでした。

社員満足度やモチベーションを上げるには
貨物会社が誠意を以て国労要求に応えることである。



で働く労働者の生活は一層厳しくさせるものです。

とする考えは、さらに貨物会社で働く労働者や関連会社

が十分にあるにもかかわらず、「昨年同等を目指したい」

分、世間の動向、前年に比べ大幅に回復している実態

第3回交渉において示した会社の考えは、物価上昇

の、物価上昇分には全く追いついていません。

100円となっています。一方で貨物会社の賃金引き上げは実施しているもの

は5.58%で、従業員500人以上の大手企業を対象とした調査結果では、

定期昇給にベースアップを加えた月額賃金の引き上げ額は平均で1万92

直近の業績で判断する。」としていますが、この数年、賃上げに対する世の中

の動向は政財界の要請もあり実施傾向にある中で、昨年の大企業の賃上げ率

は5.58%で、従業員500人以上の大手企業を対象とした調査結果では、

定期昇給にベースアップを加えた月額賃金の引き上げ額は平均で1万92

100円となっています。一方で貨物会社の賃金引き上げは実施しているもの

は5.58%で、従業員500人以上の大手企業を対象とした調査結果では、

定期昇給にベースアップを加えた月額賃金の引き上げ額は平均で1万92

100円となっています。一方で貨物会社の賃金引き上げは実施しているもの

は5.58%で、従業員500人以上の大手企業を対象とした調査結果では、

定期昇給にベースアップを加えた月額賃金の引き上げ額は平均で1万92

100円となっています。一方で貨物会社の賃金引き上げは実施しているもの

は5.58%で、従業員500人以上の大手企業を対象とした調査結果では、

定期昇給にベースアップを加えた月額賃金の引き上げ額は平均で1万92

100円となっています。一方で貨物会社の賃金引き上げは実施しているもの

は5.58%で、従業員500人以上の大手企業を対象とした調査結果では、

定期昇給にベースアップを加えた月額賃金の引き上げ額は平均で1万92

100円となっています。一方で貨物会社の賃金引き上げは実施しているもの

は5.58%で、従業員500人以上の大手企業を対象とした調査結果では、

定期昇給にベースアップを加えた月額賃金の引き上げ額は平均で1万92

100円となっています。一方で貨物会社の賃金引き上げは実施しているもの

は5.58%で、従業員500人以上の大手企業を対象とした調査結果では、

定期昇給にベースアップを加えた月額賃金の引き上げ額は平均で1万92

100円となっています。一方で貨物会社の賃金引き上げは実施しているもの

は5.58%で、従業員500人以上の大手企業を対象とした調査結果では、

定期昇給にベースアップを加えた月額賃金の引き上げ額は平均で1万92

100円となっています。一方で貨物会社の賃金引き上げは実施しているもの

は5.58%で、従業員500人以上の大手企業を対象とした調査結果では、

定期昇給にベースアップを加えた月額賃金の引き上げ額は平均で1万92

100円となっています。一方で貨物会社の賃金引き上げは実施しているもの

世間の賃上げに対する機運は高まっている。

貨物会社の「昨年同等を目指す」考えは認められない!

3月6日、「2025年4月1日以降の賃金引上げに関する申し入れ」(国

労闘申第9号)に基づく第3回の交渉を行いました。

交渉では2024年度の輸送動向は全般的な荷動きは緩やかな回復基調

のなか、物流の2024年問題や脱炭素に向けた動きを背景に鉄道シフトが

進捗しているが、列車脱線事故や輪軸組立作業の不正行為が判明し、信頼を

損ねる結果となった。4期連続の単体経常赤字は確実な状況であり、また連

結の黒字確保もギリギリの状況となっていることから、「ベアについては実

施したいと考えており、金額については昨年と同等の額を目指し、引き続き

議論していきたい。合わせて離職防止・採用数確保に向けた措置を検討した

い。」との考えを示しました。

